別記様式（第６条関係）

令和　８年　８月　２１日

清水町議会議長　　様

清水町議会議員　山本奈央

研　修　報　告　書

清水町議会議員研修要綱第６条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

１　研修名（主催者）　議会広報研修会（北海道町村議会議長会）
２　研修日時　令和８年８月18日（火）
３　研 修 先　ホテルポールスター札幌　２階
４　研修目的　議員の資質向上と議会の活性化に資するため。
５　成果

今年度も研修会に参加いたしました。
研修では、全国の議会だよりの事例や、見出し、写真、紙面構成などについて学び、清水町の議会だよりをつくる上でも参考にしてきました。
今年度、清水町議会でもいくつか新しいことを試しています。
その一つが、「議会ってなぁに？」という特集です。議会の仕組みや役割を、中学生が読んでも分かるような内容にすることを意識して作りました。
また、一般質問のページでは、これまで使っていた議員の似顔絵を新しくする試みもしています。
どちらも大きな変更ではありませんが、これまでと同じものを作り続けるのではなく、「どうしたら議会に関心のない人にも見てもらえるだろう」「どうしたら分かりやすく伝えられるだろう」と考えながら、少しずつ試してきたものです。
今回の研修を聞きながら、こうした取り組みの方向は間違っていなかったのかなと思う一方で、まだまだ考えられることがあると感じました。
今回、特に参考になったのは、議会だよりは、議会で話し合ったことや決まったことを知らせるだけではなく、その先に住民の行動や参画がある、という話です。
議会だよりでは、議会で何を審議したのか、何が決まったのかを正確に、分かりやすく伝えることが大切です。しかし、どれだけ大切なことを書いていても、まず見てもらえなければ、読んでもらうことはできません。
そして、「見てもらう」「読んでもらう」ことがゴールではなく、そこから町や議会に

関心を持ったり、自分にも関係することだと感じたり、意見を伝えたり、議会に関わったりするところまで考えて広報を作ることが大切だという話がありました。
住民の意識や行動には、「無関心期」「関心期」「準備期」「実行期」「維持期」という5つの段階があるという話も印象に残りました。
議会だよりを読む人が、みんな最初から議会に関心があるわけではありません。
そう考えると、「議会ってなぁに？」のように、そもそも議会とは何をするところなのかを分かりやすく伝えることも、一つの入口になるのではないかと思いました。
まず、「ちょっと見てみようかな」と思ってもらう。
そして、読んでみたら「自分の暮らしにも関係があるんだ」と気づいてもらう。
その積み重ねが必要なのだと思います。
そのために、今回すぐにでも意識したいと思ったのが、見出しの付け方です。
「○○について」とテーマを書くのではなく、その記事に何が書いてあるのかを見出しにする。そして、15文字程度に簡潔にするという話でした。
新聞を読む時も、最初からすべての記事を読むのではなく、まず見出しを見て、気になった記事を読みます。そう考えると、議会だよりも同じなのだと思います。
「何について書いてあるか」ではなく、「何が書いてあるか」が一目で分かる見出しにする。
これは、今後の編集ですぐに意識できることだと思いました。
また、すべての議案を同じように並べるのではなく、住民にとって重要なものを選び、しっかり伝える「ピックアップ方式」も紹介されました。
議会だよりなので、審議したことをできるだけ多く載せたいという気持ちはあります。
一方で、すべてを載せようとすると文字が多くなり、一つ一つの記事が小さくなります。その結果、読まれないのであれば、何のために載せているのかということも考えなければなりません。
何を載せるのかと同じくらい、「何を一番伝えたいのか」を考えることも必要だと感じました。
予算や決算、条例についても同じです。
事業名や条例名をそのまま並べるのではなく、「町民の暮らしにどう関係するのか」「議会では何が問題になったのか」「議員が何を聞き、町がどう答えたのか」を伝える。
これは、行政の広報とは違う、議会だよりだからこそできることだと思います。
また、住民の顔写真や声を掲載したり、議会モニターから意見を聞いたりしている自治体の事例もありました。
議会から住民へ一方的に情報を出すだけではなく、住民の声を聞き、それを議会活動につなげていく。議会広報には、そうした役割もあるのだと改めて感じました。
一方で、考えていきたいと思ったこともあります。
研修の中では、週刊誌のような見せ方も参考になるという話がありました。
確かに、まず見てもらうためには、写真を大きくしたり、見出しを工夫したり、「何

だろう」と思ってもらえる紙面にすることも必要です。
今年度、似顔絵を新しくしたり、「議会ってなぁに？」という特集を作ったりしたことも、考え方としてはその延長にあると思います。
ただ、議会は町の予算や条例、これからの町の方向などを審議する大切な機関でもあります。
親しみやすければ、それだけでよいのか。
見てもらうことと、議会としてきちんと伝えることのバランスをどこに置くのか。
これは、今回の研修を聞きながら、私が一番考えたところでもあります。
その答えは、まだ自分の中でも出ていません。
だからこそ、広報公聴委員会や議会の中で、「どんな議会だよりにしたいのか」「誰に読んでもらいたいのか」「何を伝えたいのか」を話し合うことも必要なのではないかと思いました。
今回、全国の議会広報コンクールで評価されている自治体の事例もたくさん紹介されました。
見出し、写真、住民の声、予算や決算の伝え方など、それぞれに工夫があります。
賞を取ることを目的にするのではなく、「なぜこの議会だよりは読みやすいのか」「なぜ目に留まるのか」を委員みんなで考える時間があってもよいと思います。
毎年研修に参加し、少しずつ学びながら、清水町でも実際に試してきました。
今回の研修を受けて感じたのは、議会だよりには、まだできることがたくさんあるということです。
「何を載せるか」だけではなく、「誰に読んでもらいたいのか」「どうしたら読んでもらえるのか」、そして「読んだ後にどうつながってほしいのか」まで考える。
子どもから高齢者まで、様々な世代の人が「ちょっと読んでみよう」と思える議会だよりにするために、これからも一つずつ試しながら、より良いものにしていきたいと思います。

令和８年９月 14 日

清水町議会議長　山下清美　様

清水町議会議員　中河つる子

研　修　報　告　書

清水町議会議員研修要綱第６条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

1,　研修名　　北海道町村議会広報研修会　（北海道町村議会議長）

2,　研修日時　令和８年８月 18 日

3,　研修先　　札幌市

4,　研修目的　議会広報誌の基本と編集

5,　成果

議会広報の課題　―　読みやすく、伝わり・つながる➡議会の「見える化」

1,　住民にとり存在感ある議会へ

投票率低迷、議員のなり手不足

2,　議会は本質的に「メディア的」性格をもつ機関

◆住民代表として多数の議員からなる議会は、地域の各階層から生ずる住民ニーズ（民意）を幅広く自治体行政に反映させる住民自治の”窓口”である。

◆議会の諸活動が住民に伝わり、その内容が理解され、批判や賛同の応答が共有される関係は地方議会制度に欠かせない。

3,「開かれた議会」へ２大要件

（議会改革の目標）

1, 住民の意見を聴き、反映させる議会

・議会報告会・意見交換会など住民との懇談会

・議会だよりの広聴企画（住民取材、住民登場）

・誓願、陳情の取り扱いの改善

・公聴会、参考人を招致

・地域住民の専門的知見の活用

2、住民に「見える化」「自分ゴト化」、解りやすい議会

・議会だよりの充実・進化、議会の視点

4,　広報はＰＲ

団体と住民との良好な関係づくり

聴く（広聴）、知らせる（広報）の双方向で成立

5、　自治体広報の３大情報

・行政サービス広報

・政策広報

・地域広報

「知らせ」「報告」するだけでなく、ゴールは住民に行動を促し参画すること。

以上

別記様式（第６条関係）

令和８年　９月　15 日

清水町議会議長　山下　清美　　様

清水町議会議員　　橋本　晃明

研　修　報　告　書

清水町議会議員研修要綱第６条の規定により、次のとおり成果を報告します。

記

１　研修名（主催者）　令和８年度北海道町村議会広報研修会

２　研修日時　令和８年８月 18 日（火）

３　研 修 先　札幌市

４　研修目的　議会の活性化に資するため。

５　成果（具体的に）

今回の研修会では、北海道町村議会広報研究会の議会広報サポーター　芳野政明氏の講演を聞いた。

○講演要旨

議会広報の基本と編集　議会の見える化
地方自治の本旨→団体自治＆住民自治
報告型から住民自治推進広報へ
議会広報の課題･議会の見える化

1. 住民にとり存在感のある議会へ

2. 議会は本質的にメディア的性格を持つ機関

3. 開かれた議会へ　①住民の意見を聴き反映させる議会　②住民に見える化　自分ゴト化、わかりやすい議会

4. 戦前の公報→戦後の広報へ

5. 自治体広報の目的　住民意識の醸成から行動を促す

6. 住民の行動変容へ　知る　関心を持つ　行動する

7. 議会への住民参加を促す広報

8. 議会広報　行政広報にはない重要な役割

　目標を持ち編集活動→住民自治の推進に貢献

９.優秀紙の共通点
　重要案件の抽出
　問題提起型の特集
　議会報告に住民の声
　効果的な紙面構成

10.読まれる議会だよりへの企画＆編集

11.議会広報の刷新、進化を図る時代
　読者が主人公　住民目線の編集

12.議会広報の３つの主要な役割　説明責任　民意の反映　監視・参加の促進

１３.編集方針を持って企画・編集

14.　議会だよりの企画

15.　企画立案に必要な５要素
　テーマ　ねらい　切り口　素材　展開
　伝わる広報へ編集のスキルアップ

○所感

　議会が言論の府として開かれた議会を実現し、その活動を町民が関心を持って読むことができる広報紙によって伝えれば、町民参加のまちづくりを推進していくことにつながるということは、理論的にはその通りだと思う。
　町民目線を意識しながら、企画・編集を行い、さらに町民が登場する企画を増やす

ことで、より見てもらえる紙面づくりが進められるだろう。

今後の編集に生かしていきたい。